

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600133		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 向の山		
所在地	名古屋市天白区向が丘三丁目1710番		
自己評価作成日	平成26年11月11日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hohoemi33.co.jp/">http://www.hohoemi33.co.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「外出」「男の生きがい介護」をテーマとし、開設当初から力を入れて取り組んでいます。この2つの取り組みを軸として、施設に入ってもその人らしい馴染みの生活が送れるよう支援しています。「外出」では、散歩・買い物・喫茶店など、日々生活する上での外出はもちろん、地域のお祭りや朝市へも出かけます。また、入居者さまの希望のもと、年に1回ご家族さま参加型で一泊旅行を企画しています。今年は浜名湖へ行き、温泉に浸かり夜は宴会…と、日頃の疲れを癒しながら普段とは違った楽しさを感じて頂きました。「男の生きがい介護」と称した「井戸掘り」や「畑仕事」はどちらも地域の方と協力しながら取り組んでおり、当事業所と地域との交流のきっかけの一つとなっています。夢中になって草取りをされる姿や収穫した野菜を調理される姿は、当事業所の「普段の様子」となっており、入居者さまに充実感・達成感を味わって頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって、理念の「あなたのままで、そのまま」を実践するためには、何を行うべきなのかを考え、意欲的に取り組んでいる。周辺地域とは、地域役員の消防団長、民生委員などが運営推進会議に出席しており、また、地域の小中学校との交流もあり密接な関係を構築している。職員の研修やミーティングを行い、提案を促す試みやそれを実現させることで、自主的な行動を引き出している。今年度は、職員が陶芸療法士の資格を取って、土に触れる楽しさや作品が出来る喜びを体験してもらっている。オープン当初より毎年行っている一泊旅行は、利用者の楽しみでもあり、職員の達成感が持てる大切な行事となっている。常に利用者のやりがいや楽しみにつながることは何かを考え、新しい試みを実践していく推進力が高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を『あなたのままで、そのまま』と定め、その人らしい生活を続けられる関係づくり・環境づくりを目指している。</li> <li>・開設時より理念を玄関に掲げ、入社時研修やミーティングで共有し、理解を深めている。</li> <li>・朝礼にて毎朝全員で理念を声に出して浸透させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を理解し易いように、行動指針を作成し、どのように考え、行動に移すべきかの方針を説明している。朝礼時に唱和するだけでなく、分かり易く具体的な事例をあげ理解を深め、周知している。</li> </ul>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者と買い物や喫茶店や散歩に出かける事で、お店の方や近所の方と顔なじみになっており、毎回声をかけて頂いている。</li> <li>・「こども110番の家」として地域のこどもを見守っている。</li> <li>・他事業所と情報交換し、より良い施設を目指している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に入会しており、掲示板を事業所の表に設置し、地域の人も掲示できるように配慮している。近隣中学の体験学習の受け入れ、小学校の発表会の見学、地域の夏祭りなど交流は盛んである。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所前の掲示板にて、相談窓口を掲示している。</li> <li>・ブログで認知症の方との関わり方や日々の様子を記事として取り上げ、地域の方に広く伝えている。</li> <li>・積極的に外出をして認知症ケアの実際を地域の方に見て感じて頂いている。その際に地域の方からの相談にのったり、認知症に関する知識を伝えている。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、事業所の活動報告を行っている。参加していただいている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、事業所の運営などに対する意見を頂き、参考にしている。</li> <li>・朝市や認知症予防の取り組みに対して地域のニーズが高いようで、活動内容を改善しながら進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区職員、民生委員、消防団長、家族その他の参加のもとで、法人合同で行われている。今年度は、会議で提案を受けて、認知症講座を分かり易くする為に、認知症介護のエピソードを劇仕立てにして、好評であった。</li> </ul>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・天白区職員へ地域運営推進会議への参加を依頼すると同時に、情報の共有を行いながら協力関係を築いている。	区職員が運営推進会議に毎回出席しており、連絡を密に取り、情報を共有して協力関係を築いている。役所から、介護に対してのさまざまな相談を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入社時研修で、「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ機会を設けている。 ・年次計画に沿って全体ミーティングで学ぶことで、現場スタッフが改めて介護の質を見直す良い機会となっている。 ・拘束になりそうな場面があれば、フロアミーティングで拘束しない方法を全員で検討している。	身体拘束についてのマニュアルを入社時より、全体ミーティングなど多くの機会でも学んでいる。「スピーチロックになりそうな時には、その都度個別に注意を行っている。玄関には、揺れるときれいな音の出るウインドチャイムを吊り、出入りに注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入社時研修で、「虐待防止」社内研修プログラムを組み入れ学んでいる。 ・年次計画に沿って全体ミーティングで学ぶことで、現場スタッフが改めて介護の質を見直す良い機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・当社において、成年後見制度を利用している人がいるため、ミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して不安なく利用ができるよう、2時間程時間をかけて丁寧な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「来訪者box」や「社長直行便」で意見を頂けるようにしており、即座に話し合い対応している。</li> <li>・カンファレンスで、ご家族からの聞き取りを行っている。</li> <li>・ご家族が来所しやすい環境をつくり、来所された際にはスタッフと相互に情報交換を行っている。</li> <li>・季節のレクでご家族の意見を反映させている。</li> </ul>	日頃より利用者、家族が話しかけ易い雰囲気作りに努めている。来訪時に記入する用紙に、家族意見を求める欄を作っている。また、文書の送付時に直接経営者に伝える「社長直行便」というハガキを同封し、提出された意見要望に対しては、返事を郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ミーティングでスタッフの意見をまとめ、スタッフの意見について協議をしている。</li> <li>・全スタッフの意見を聞き取り、運営方針を決定している。</li> <li>・月に2回の面談でスタッフが直接管理者と話ができる機会を設けている。</li> </ul>	ミーティングのほか、アンケートなども使い、職員間での話し合いの中から運営方針を作り、職員の意見を反映させている。物品の購入から、陶芸セラピーの研修参加、薬の管理方法など、職員からの発案を実現させることで、意欲を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半年に1度個人面談を行っている。その際に自己目標を設定し、向上心を持てるようにしている。</li> <li>・面談実施者は面談技術向上のため研修を受けている。</li> <li>・月に2回、管理者は介護職員と話をする場を設けており、介護職員が前向きに働けるようサポートしている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが自発的に研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。また、受講内容などに対して会社が補助してくれる仕組みになっている。</li> <li>・法人外の研修情報を回覧板で回し、参加を促している。</li> <li>・随時職員のスキルアップのための研修を行っている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネージャーの勉強会などに参加している。</li> <li>・地域包括支援センターに情報を提供・共有している。</li> <li>・グループ内で他施設間交流として各施設・事業所の良い点や改善点を見つけて報告し合い、課題については改善するよう検討している。</li> </ul>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス開始前から不安や希望等を傾聴し、可能な限り直接会う事で、安心・納得できるように努めている。</li> <li>・いつでも見学して頂けるよう、現場スタッフにも接遇や簡単な案内ができる体制をとり、パンフレットも常に置いている。</li> <li>・マニュアルを作り、相談や問い合わせに対して統一した対応をとれるようにしている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期段階から話を傾聴し、家族や本人のニーズを引き出した上での関係づくりに配慮している。</li> <li>・現場スタッフも積極的にコミュニケーションを図る事で相談し易い雰囲気を作り、安心できるように配慮している。</li> <li>・新規入居者との距離感や情報共有を大切にしている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容を中立的に吟味し、その人にとって最も必要と考えられるサービスを家族と共に模索し、それに伴う情報提供を心掛けている。</li> <li>・当施設以外のサービスがご本人・ご家族にとって必要な場合は、その他のサービス利用が行えるよう支援している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者のADLを観察メモを用いて判断し、協力しながら生活できるよう環境設定をしている。メモは事務所に貼り出し、変化の共有と支援方法を見直すきっかけとなっている。</li> <li>・毎日洗濯・炊事・掃除などの家事を手伝って頂いている。</li> <li>・4大レクで入居者の希望を聞き、企画内容を決めている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4大レクはご家族にも意見を頂き、参加を促している。</li> <li>・月1回、便りと写真の添付による報告に加え、各家族に合わせた方法で随時連絡をしている。</li> <li>・小旅行にご理解頂き、ご家族からも希望の声がある。</li> <li>・来所の際、時間帯により食事をお誘いし、食事内容やADLを直接見て頂けるよう努めている。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの生活の重要性を契約前に説明し、事前にご家族・ご本人から丁寧に聞き取っている。</li> <li>・馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続できる環境を整え、生活の一環として取り入れている。</li> <li>・小旅行や4大レクの企画時に馴染みを聞き出している。</li> <li>・地域に住む入居前の友人や親戚が訪ねて来られる。</li> </ul>	<p>知人の来訪があったり、手紙、年賀状を出したり、馴染みの関係の継続を支援している。長年、趣味としていた書道、歌などを楽しむ時間を設け、入居前の生活と変わらないよう充実させるように努めている。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロアミーティングで話し合い、必要に応じて改善している。</li> <li>・朝昼夕の申し送り、当日の入居者の心身状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。</li> <li>・全員外出の機会を設け、様々な場面設定での関わりを築く環境づくりをしている。</li> <li>・必要に応じた席替えにより、対人トラブルを防止している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了となったご家族に対し、入居者の写真やアルバムをお渡ししたり、施設での会話や生活の様子をお伝えする等の配慮をしている。 ・利用中止となったご家族がボランティアとして来所して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・観察メモにより、思いや状態の把握に努めている。 ・カンファレンスでご家族の想いを聞きとった上でケアの方向性を検討している。その内容を現場スタッフにも伝え、スタッフは実際の介護でも活かせる工夫をしている。 ・必要に応じて個人ノートを作成し、より細かな情報共有に努めている。	家族の面会時や、利用者との日常の会話から、希望や意向を汲み取っている。利用者一人ひとりの思いを観察して、気付いたことを絵や短いコメントで表した「観察メモ」を壁に貼り、職員の出勤時に確認して情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・観察メモを用い、その人の馴染みの環境を全員が把握できるように努めている。 ・ご家族・ご本人の会話の中で、折にふれて馴染みの暮らし方を聞くように心掛けている。 ・レクリエーションを企画する際には、それぞれの経験や馴染みの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・観察メモを用い、ご本人の「できないこと」「できること」「わからない事」「わかる事」を観察し、日々把握できるように努めている。 ・上記の内容をフロアミーティングや全体ミーティングにて話し合い、情報の伝達と話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスを定期または、必要時に行う事で現状に即したプランの立案を行っている。</li> <li>・カンファレンスでご家族に伝えたいことを事前に現場職員から聞き取っている。また、ケアプランは医療ノートも随時参照し反映させている。</li> </ul>	半年に一回モニタリングをして、カンファレンスを行い、記録を作成し、職員間で情報を共有している。家族を含めての話し合いをして、介護計画を作成している。状態に変化のあった時は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察メモを用い、個々の入居者に焦点を当てている。また、観察メモを掲示することで情報の共有をしている。</li> <li>・フロアミーティングにて、それぞれの入居者に対して個別ケアを検討し、実践の様子やその後の変化を話し合い、よりよいケアの提供ができるよう努めている。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や入浴など、日々変わる入居者からの希望に対して即座に対応できるよう柔軟な支援をしている。</li> <li>・「お茶菓子が欲しい」という入居者に対し、お店でご本人が直接好きな物を選んで購入できるような支援をしている。</li> <li>・入居者に「馬を見せたい」というご家族の要望を受け、小旅行を計画中。</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事である消防訓練や、夏祭りに参加している。</li> <li>・週に2、3度ボランティアの方が来所して下さり、入居者の楽しみにもなっている。</li> <li>・近所の喫茶店やスーパー等に通り、店員の方が見守りをして下さったり、話しかけて下さったりしている。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。</li> <li>・新しく病院にかかる際には、ホームDrと相談のもとご家族に提案し、希望された場所へ行って頂いている。</li> <li>・ご家族が希望された歯科や針治療を受診していただき、頻度もご家族や医師と相談して随時変更している。</li> </ul>	協力医の往診が月2回あり、看護師は毎週来所し3か月毎に採血を行い、利用者の健康状態が把握されている。家族や本人の希望に応じ訪問マッサージやはり治療も受診できる。薬の変更等があれば情報が共有できる環境が整っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力医療機関のDrが2週に1度、看護師が週に1度来所し、入居者の状態の把握に努めている。職員は入居者の日々の体調面の状態を記録に残しており、気づいたことがあればすぐに連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・日頃から、地域の病院とのケースワーカーと頻りに情報交換を行っている。入院をした際には、窓口の確認・情報交換・今後の相談を円滑に行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族と重度化に伴う支援の方針を話し合うという方針を契約時にご家族と話しあっている。 ・重度化・終末期に対する対応指針を定めている。 ・ADLの低下や病気の進行具合等の状況も来所時にご家族に伝え、話をする場を設けている。	重度化、終末期に関する施設マニュアルを入居時に説明し、理解を得ている。状態変化に応じ、家族、医師、職員とカンファレンスの場で現時点において、また、今後考えられる状態について話し合い、対応を判断している。職員には入社時に心構えや自覚を促し、職員間での情報共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・「応救手当マニュアル」「緊急時の対応マニュアル」を事務所に備えている。 ・地域の消防訓練に参加し、緊急時の対応を学んでいる。 ・年次計画に沿って全体ミーティングで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時マニュアルを掲示して意識付けしている。 ・年次計画に沿って全体ミーティングで学んでいる。 ・防災訓練に参加し、参加できなかったスタッフにも、ミーティングで伝達している。 ・夜間を想定したシュミレーションを行い、スタッフの意識を上げている。(※次回TLMで行います)	消防団による応急処置の講習会や夜間想定訓練のシュミレーションを職員で実施している。また、地域の防災訓練に職員が参加している。倉庫に3日分の食料や水を備蓄している。	施設理念の第11に「安全」が掲げられている。是非、実際に利用者を交えての防災訓練を実施し、災害時対応の盲点を見つけ、利用者の安全確保への意識向上に努めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に個人情報の利用に関する同意書に承諾を頂いている。</li> <li>・職員は入社時に説明を受け、誓約書に承諾をしている。</li> <li>・年次計画に沿って全体ミーティングで学んでいる。</li> <li>・トイレや居室のドアを必要時以外は閉め、個人の空間を大切にしたり、トイレ誘導の声かけ方法を工夫している。</li> </ul>	入社時やミーティングで接遇に関してトイレ誘導の際は、「さりげなく」「タイミングを見計らってごく自然に」といった声掛け方法等を話し合い、情報の共有に努めている。入所時に個人情報利用や写真掲載への同意書を得て、利用者本位の介護支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を行う時には聞き取りを行い、入居者の希望を踏まえた行事になるように心掛けている。</li> <li>・意思表示が困難な入居者には「はい」「いいえ」で答えられる質問をしたり、写真を見せて選んで頂くなど工夫し、少しでも自己決定ができるように心掛けている。</li> <li>・日々の中で食事内容や着たい服など選んで頂いている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の以前の生活パターンの把握を随時行っている。</li> <li>・基本的な1日の流れはあるが、その人の思いや状態に配慮しながら、柔軟に対応している。</li> <li>・「今から入浴したい」「散歩したい」等、ご本人から訴えがあれば、安全を配慮しながら実現できるよう支援している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人やご家族と相談しながら髪型を決めている。</li> <li>・着替えの際には何を着たいか選んで頂いている。</li> <li>・入居者の希望を聞きながら、爪切り・耳掃除・髭剃りを行っている。</li> <li>・外出の際には女性は化粧・男性は髭剃りなど、身だしなみを整えて頂き、楽しみを増やせるように支援している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に關する一連の流れを入居者と共に行い、調理参加が困難な方には味見等何らかの形で参加して頂いている。</li> <li>・色合いや、個人に合った大きさ・硬さを工夫している。</li> <li>・気分転換に時折外食し、好きな物を選んで頂いている。</li> <li>・旬の食材や馴染みの料理を提供し、会話も楽しんで頂いている。また、馴染みの食器や調理法を取り入れている。</li> </ul>	<p>利用者の好みや旬の物を取り入れたメニューを考え、時には畑で収穫した野菜を利用し、1日に30品目以上摂取できるよう、手作りの食事を心がけている。正月にはおせち料理や蕎麦がきで作った餅を提供し、季節感を味わえるよう工夫している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分摂取量や食事摂取量を記録し、必要があれば医師や栄養士に相談している。</li> <li>・月1回体重を量り、食事量の増減と比較している。</li> <li>・1日30品目を摂取できるような献立を心掛けている。</li> <li>・水分摂取が困難な方に対しては、ストローやトロミを使用したり、好きな飲み物みを提供するなど工夫している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯磨きが習慣になるよう毎食後声をかけている。</li> <li>・入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助などの支援を使い分けて支援している。</li> <li>・拒否がある方へは、歯科医師と相談したり、スタッフ間で情報共有しながら清潔保持に努めている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表を用いて定期的にトイレ誘導を行い、排泄リズムやパターンを把握している。</li> <li>・フロアミーティングにて、その人のADLや思いに沿った個別のトイレ介助方法を検討し、実践している。</li> </ul>	<p>個々の排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けしながらトイレでの排泄に努めている。扉の内側にカーテンを付け、羞恥心やプライバシー、また個々の状態に合わせた介護ができるよう配慮されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩など日中の活動量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳を食事メニューに取り入れることによって便秘の軽減を図っている。</li> <li>・食材のバランスを考え、たんぱく質と共に野菜・食物繊維の多いもの等を摂り入れるように心がけている。</li> <li>・排便状況を把握し、随時ホームDrに相談している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望を聞き取り、出来る限り希望にそった時間に入浴できるよう支援している。</li> <li>入浴中に音楽を流したり、入浴剤を使ったり等、入居者に合わせた楽しみを増やしている。</li> <li>入浴時には1対1のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を構築した上で介助するようになっている。</li> </ul>	<p>利用者の今までの生活習慣や希望に沿った支援を心がけている。無理強いせず、体調に合わせて足浴や清拭での対応も取り入れ、マンツーマンで接することで利用者の気持ちの理解や信頼関係作りへと繋げている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダウンライトを活用し、照明加減を入居者に確認している。</li> <li>寝付けない入居者に対する支援方法を、ご家族や医師や看護師を交えて話し合っている。</li> <li>夜間の排泄量を把握し、パットの種類を適宜決めている。</li> <li>シーツ交換、布団干しにより清潔な環境を保持している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬情をファイルに保管し、すぐ確認できるようにしている。</li> <li>「薬の知識」という本をフロアに置いている。</li> <li>個々人の症状に合わせ、必要時にはDrや薬剤師に相談しながら、服薬し易い方法を工夫している。</li> <li>薬の変更があれば必ず申し送り、開始時期と状態の変化については医療ノートに記入している。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事ごとに入居者の喜びや楽しみや馴染みなどの聞き取りを行っている。冬は鍋、春は梅まつり、夏は流しそうめんと花火、秋には浜名湖へ一泊旅行を実施。</li> <li>農作業がなじみの入居者に庭仕事をお願いしている。また、それぞれに掃除・食器洗い・ゴミ捨て等の役割を持って頂いている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物や喫茶店や散歩などの外出支援を日常的に行っており、行き先は本人の希望を聞き取っている。</li> <li>・小旅行を企画し、なじみの場所や入居者の行きたい場所へ行けるよう、ご家族と協力しながら計画を進めている。</li> <li>・入居者が希望していた一泊旅行へは、ご家族にも準備段階から関わって頂き、当日も参加していただいた。</li> </ul>	少し坂道の多い立地ではあるが、日常的に地域内を散歩している。お弁当持参で公園へ出かけ、お花見をしたり、利用者の希望に添った個別の外出にも対応している。家族の参加も得ながら、浜名湖へ1泊旅行に出かけた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に財布を持っている。管理の難しい方には、事務所にて管理を行っている。支払は、自分でできるように環境を整えている。</li> <li>・施設の中でも、お金を使える環境があり、希望に応じて支払いを支援している。</li> </ul>			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロアに電話を置き、常時入居者が使える環境がある。</li> <li>・会話が他者に聞こえない場所で利用できるようコードレス電話機など設置し配慮している。</li> <li>・携帯電話を持ち込まれている入居者に使い方を聞かれた際は丁寧に教えている。</li> </ul>			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台所が中央にあり、入居者が使い易い工夫をしている。</li> <li>・施設内は季節感を取り入れたディスプレイを行っている。</li> <li>・フロアは暖色系の照明を設備し、居心地良くしている。</li> <li>・庭に面した縁側で、季節の移ろいを感じながらお茶を飲む等、皆で楽しめる空間となっている。</li> <li>・トイレのごみ箱は頻繁に取り換え、ニオイを吸収する壁材や香りのよい柔軟剤を使用する等、配慮している。</li> </ul>	掘りごたつと畳の落ち着いた和風調のリビングには広い縁側があり、ガラス戸越しに庭を見渡すことができる。季節感のある飾り付けがなされ、利用者が思い思いに過ごせる空間が確保されている。かすかなアロマの香りが漂い、消臭への相乗効果となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族控室など自由に使える空間が保たれており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができる。</li> <li>・玄関先やデッキにベンチを設置することで、フロア以外でもくつろいだり、仲間同士で話せる環境を整えている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に、馴染みの道具(家具や寝具など)を持ってきてもらえるようにご家族に協力を依頼している。</li> <li>・思い出ボックスに馴染みの写真や作品を飾り自分の居心地を良くできるように環境を整えている。</li> </ul>	個々の居室の入口には、お気に入りの品々や写真、作品の入った思い出ボックスがあり、居室間違え防止にもなっている。畳とフローリングの部屋があり、馴染みの家具等で居心地よく暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者のなじみの環境(まわすタイプの蛇口・障子など)を設置することで利用者の混乱をさけ、「分かること」「出来ること」が増える環境を整えている。</li> <li>・掘りごたつに座る、立つの動作を日常的に行うことで、残存能力を活かせるようにしている。</li> </ul>		